

2012年 教区新生の日メッセージ

教区を越えて、さらに求められる新生の動き

大阪大司教 池長潤

2011年3月11日、その時、私は新幹線で東京に向かっていた。三島の手前まで来た時、急にブレーキがかかって速度が落ちたと思うと、間もなく完全に停止、富士山の方向に延びている高圧線が激しく揺れていました。



た。すぐに車内放送が流れ、「今、非常に大きな地震が東北地方にありました」と言われました。その場で体に感じたのは、揺れている時間が、普通の地震と比べてずいぶん長いなあということでした。

た地域の被災者全体のための支援が始まりました。そしてそれは、他の教区、教会管区も関わり、日本の教会全体で支える仕組みによって進められたのです。折しも2010年、司教団は各教区に、日本の教会のビジョンにつ

のこれまでの豊かさは、非常に不確かで危険な前提のもとに成り立っていたことを明るみに出したのです。人びとはそれに気づき、多くの人が、エネルギーの大量消費をしない新しい生活様式を求めようとし始めています。

と向き合うことの大切さを、お伝えしました。この一年、そのような祈りを大切にしてこられたでしょうか。神と向かい合うことを大切にすればするほど、ここに述べた新生の大切さもわかってくるはずですよ。

実際に起こったことがそんな生易しいものでなかったことは、言うまでもありません。東日本の太平洋側の広域にわたって、ものすごい高さの津波が襲って、沿岸の民家も工場ものみ込んでさらってゆき、船や車も流され、無数の死者を出しました。原子力発電所が破壊され、放射性物質による取り返しがつかない汚染が広がりました。



か、「共に生きる社会をもたらしよう働くことは、福音をもたらしことである」と指摘され、現実から教会のあり方が問われていくという、NICE**の方向性新生の方向性がはっきりと示されました。

私たちが日本の司教団は、昨秋、「いますぐ原発の廃止を」のメッセージを発表し、「わたしたちは、たとえば節電に努める場合も、この福音的精神に基づき、純質素な生活様式を選び直すべきです」と呼びかけ、清貧の道を選びとることによって、福音の真正な証しを立てるよう訴えました。

父である神はいつも私たちのそばにいてくださることに信頼し、大震災によって癒し難い悲嘆に包まれ、再び立ち上がることができないほどの絶望に襲われた被災者の方々の声に耳を傾け、ともに新生の道を歩んでまいりましょう。

「5つの教会像*」を示した新生計画は、震災以前からすでに芽生え始めてはいましたが、新しい時代にふさわしい教会のあり方をさらに徹底させ、具体化したのです。

違ひ、この機会に、新しい、より優れた未来に開かれる教区新生を築き上げることなのです。「5つの教会像*」を示した新生計画は、震災以前からすでに芽生え始めてはいましたが、新しい時代にふさわしい教会のあり方をさらに徹底させ、具体化したのです。

今回の大震災は、日本の教会に新生を求めただけでなく、日本の教会全体にも、ある意味で「新生」を求めているのです。象徴的なのが福島第一原発の事故で、これによって、原発のいわゆる「安全神話」は崩れ去ったといわなければなりません。

一年前のメッセージで、私は「神と向かい合うこと」と題して、祈りのうちに神と向かい合うことの大切さを、お伝えしました。この一年、そのような祈りを大切にしてこられたでしょうか。神と向かい合うことを大切にすればするほど、ここに述べた新生の大切さもわかってくるはずですよ。

*5つの教会像：①「谷間」に置かれた人々の心を生きたる教会へ、②「交わり」の教会へ、③「共同責任」を担い合い、協働する教会へ、④聖霊の導きを識別しながらともに歩む教会へ、⑤司祭・修道者との協力を重視しながら、信徒の役割と責任(使命)を前面に出す教会へ

東日本大震災に伴う、教会のはっきりとした動きはこれです。「オールジャパンで取り組む」。

新生計画は大阪教区だけの取り組みでしたが、同じ動きが日本の教会全体のものとなったのです。教会は教会だけのためにあるのではなく、教会をベースにし

た地域の被災者全体のための支援が始まりました。そしてそれは、他の教区、教会管区も関わり、日本の教会全体で支える仕組みによって進められたのです。折しも2010年、司教団は各教区に、日本の教会のビジョンにつ

のこれまでの豊かさは、非常に不確かで危険な前提のもとに成り立っていたことを明るみに出したのです。人びとはそれに気づき、多くの人が、エネルギーの大量消費をしない新しい生活様式を求めようとし始めています。

と向き合うことの大切さを、お伝えしました。この一年、そのような祈りを大切にしてこられたでしょうか。神と向かい合うことを大切にすればするほど、ここに述べた新生の大切さもわかってくるはずですよ。

大震災と教区新生

それについても思い出されるのは、阪神淡路大震災でのことです。大震災を境にして、大阪教区は大きく

た地域の被災者全体のための支援が始まりました。そしてそれは、他の教区、教会管区も関わり、日本の教会全体で支える仕組みによって進められたのです。折しも2010年、司教団は各教区に、日本の教会のビジョンにつ

のこれまでの豊かさは、非常に不確かで危険な前提のもとに成り立っていたことを明るみに出したのです。人びとはそれに気づき、多くの人が、エネルギーの大量消費をしない新しい生活様式を求めようとし始めています。

と向き合うことの大切さを、お伝えしました。この一年、そのような祈りを大切にしてこられたでしょうか。神と向かい合うことを大切にすればするほど、ここに述べた新生の大切さもわかってくるはずですよ。

と向き合うことの大切さを、お伝えしました。この一年、そのような祈りを大切にしてこられたでしょうか。神と向かい合うことを大切にすればするほど、ここに述べた新生の大切さもわかってくるはずですよ。

**「福音宣教推進全国会議」。第2バチカン公会議を受け、「開かれた教会づくり」を課題として、第1回が1987年に、第2回が1993年に開催された。